

か ら が

柔整Version

サ イ エ ン ス

☆巻頭ビッグインタビュー

『柔道整復物理療法のエビデンスを追及し、臨床研修センターの創設を願っています!』

樽本 修和 氏

◇スペシャルインタビュー

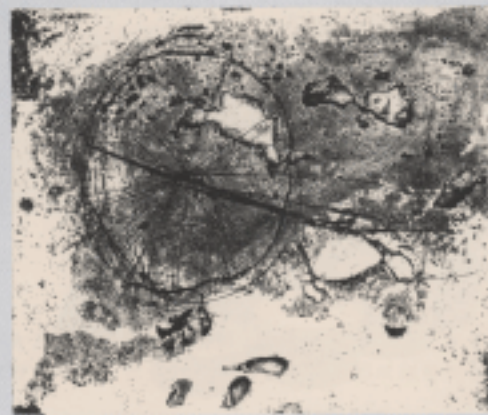
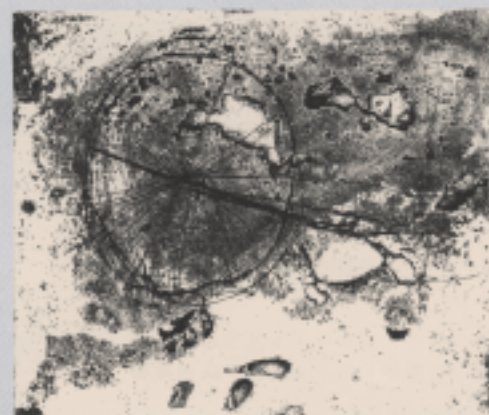
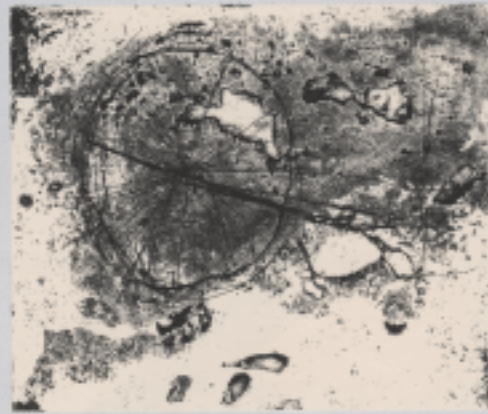
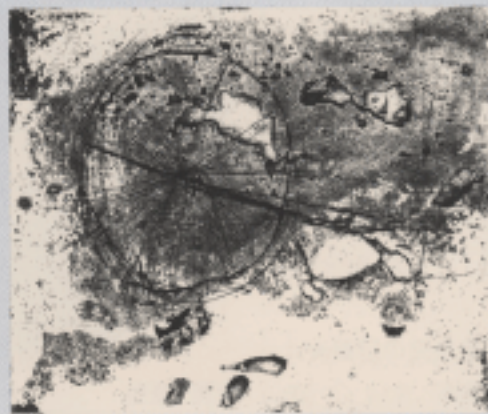
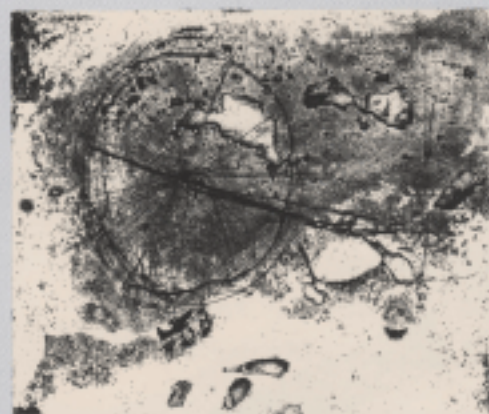
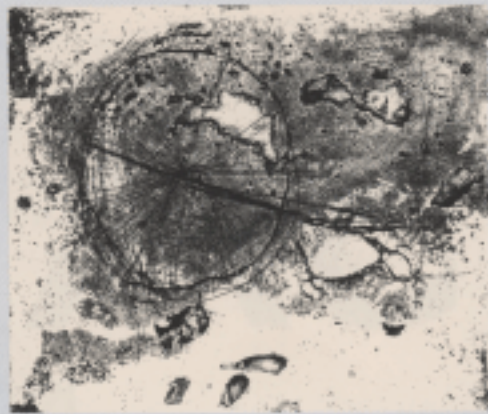
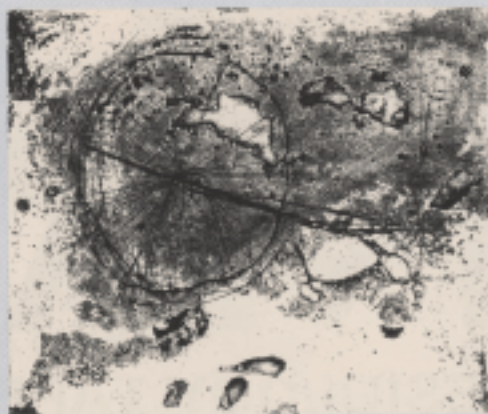
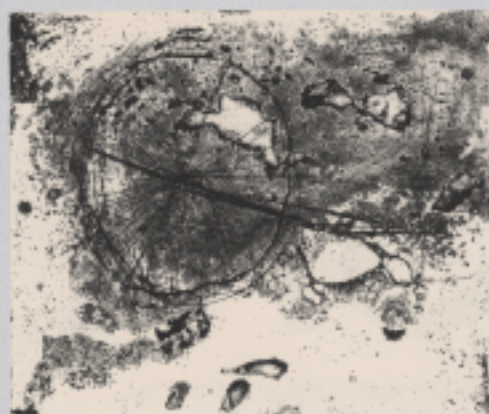
『地域住民が真に求める甲府市らしい住民主体の「地域包括ケアシステム」の構築を目指します!』

樋口 雄一 氏

◇連載「柔道整復は国民にとって本当に必要なのか その3」

— 人口減少社会と柔道整復 —

松村 圭一郎 氏



2015.6月
第122号

☆プラスワンの治療法として、注目の治療技術についてご紹介しています。

プラス
Q1

側弯症改善大塚式RHPI療法

大塚整体治療院 院長 大塚 乙衛

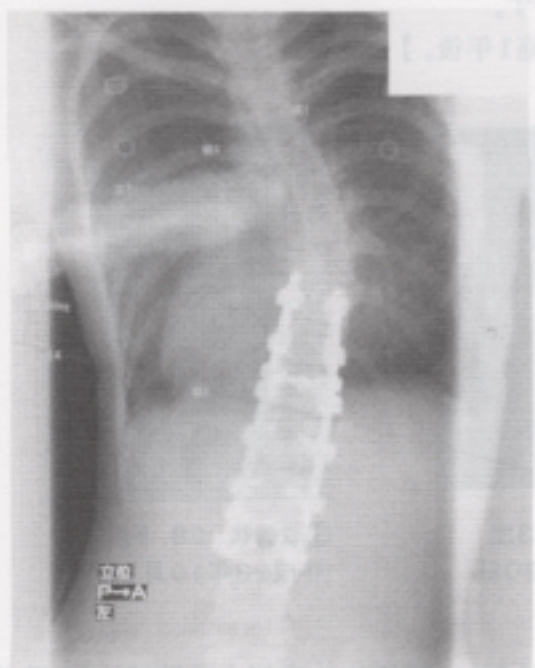
【脊柱手術をしておいて悪化した例】

症例：当時、中学1年女子。腰椎弯曲40度。群馬大学病院にて「手術をしたら治る」と言われて中学2年で手術を実施。手術後1年経過した中学3年の時、たまに痛みがあり、今度は腰椎ではなく胸椎弯曲38度となっており再度手術と言われる。もう手術はしたくないということで当院に来院されました。

これは手術をしておいて悪化した例です。成長期に手術をすると、身体の成長が妨げられ発育を阻害します。また、成長期に腰椎部のみを固定した事で、成長に伴い固定していない胸椎部が弯曲し悪化、そして手術後の定期点検も怠ったものと考えられます。

「手術したから良い」という考えを無くさなければならない。

現在、当院で治療中。体操療法、木型治療、大塚整体指導装具の着用をしており、経過良好。但し、腰椎に金具が入っている為、無理はできません。



平成27年3月11日 胸椎38度



平成27年3月8日

重度側弯症50度の手術度数であっても
積極的治療努力の継続により28.8度に改善した症例報告

【はじめに】

当時、中学2年女子。慶応大学病院にて胸椎弯曲50度と診断され「来年2月または3月頃に手術」と言われる。ある日、手術と言われたことがトラウマとなっており、学校を途中で帰宅。泣きながら帰宅したことを心配した教師が本人に事情を聞くと側弯症の事が原因であることが判明。偶然にもその教師の子供が当院で治療中だった為、「大塚整体で頑張ってみたらどうか」と紹介し当院に来院。

【方法】

月1回治療を実施。側弯症矯正具RHPI療法木型を自宅で使用。体幹筋向上の為のそくわんエクササイズ指導。矯正力があり改善できる大塚整体指導装具着用。



RHPI療法木型



大塚整体指導装具

【結果】

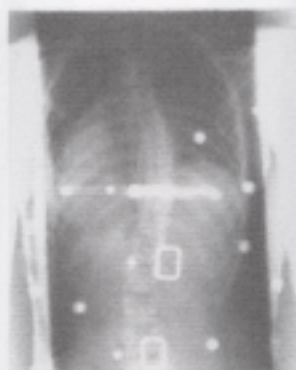
慶応大学病院50度。当院治療を実施1年後、28.8度に改善。その後、再度慶応大学病院にいくと「手術不要。もう来なくていい。青木整形外科に通院でよい」と言われる。

※青木整形外科は当院と提携している整形外科です。

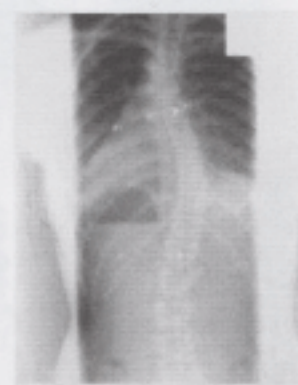
【写真①は治療前。②は装具装着時。③は治療実施1年後。】



①初診時 50度
平成22年11月6日



②装具装着時 23度
平成22年11月20日



③改善後 28.8度
平成23年10月1日

【考察】

たとえ重度側弯症であってもすぐに手術をする必要は無い。積極的治療努力の継続により改善できることを証明した。いかに、体幹筋の伸展が重要であるかということです。

☆プラスワンの治療法として、注目の治療技術についてご紹介しています。

【50度が28.8度に改善した症例のボディ写真】



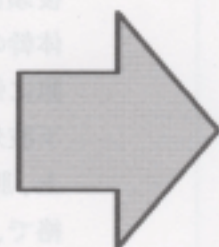
平成22年10月30日
治療前ボディ写真【立位】



平成23年10月1日
改善したボディ写真【立位】



治療前ボディ写真【前屈】



改善したボディ写真【前屈】

【側弯症治療には、以下の内容が必要です】

1. 必ず医療連携を行う。
2. 定期検診を行い、現在度数・改善度数・装具装着度数を確認する。
3. 装具治療は、定期検診時に身体の成長力を確認し装具の適時改良を行う。
4. 体幹筋を向上させる為、必ずそくわんエクササイズを行う。
5. RHPI療法木型を使用し、体幹を伸展させる(これは大学病院に無い療法です)。

【課題】

柔道整復師、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師の先生方が側弯症治療をしていますが、これらの専門学校等では側弯症治療を教えていません。しかし、学校の卒業生が開業する場合、勝手に「側弯症はこうすれば治る」という判断のもと治療しようとする場合が多く、結果的に悪化させてしまいます。治療ができるというならその根拠、論文、改善症例で証明しなければなりません。その為にも医療連携することが原則です。また、各専門学校では実施してよい治療と実施してはいけない治療を教えなければならない。異論、反論があればご連絡ください。

詳しくは、「医療連携側弯症予防改善学会<http://sokuwankaizen.com>」、「大塚整体治療院<http://www.sokuwan.com>」、からだサイエンス平成25年度2月号～12月号、平成26年度2月号～12月号、平成27年度2月号、4月号をご覧ください。